

コース名	トップセミナー 1 人手不足対応！ものづくり現場の省人化【港区虎ノ門開催】 ～AIを使った、人が継続して働ける職場づくり～				
研修のねらい	多くの中小製造業では人手不足による失注や残業代、外注費などの増加で利益が圧迫される状況になりつつあります。今後の人口減少が確実視される中、人手不足が業績に影響をもたらしており、中小製造業にとって人手不足への対応が重要な経営課題になっています。残業の増加や従業員の多能工化などで人手不足に対応する中小製造業者が多い一方で、近年では ロボットや人工知能（AI）、情報通信技術（IT）などの発達により、人にしかできないと思われていた仕事においても、これらテクノロジーを活用することによる省人化・省力化投資を進めることで人手不足を根本から解決しようとする中小製造業者も増えつつあります。 本研修では人口減少の現状を踏まえて、中小企業が安定的な収益を確保するために質的・量的な人材不足を代替・補完することを目的としてデジタルツールを活用した対策を生じることにより、残業の減少や工程改善等のプロセス改善で収益を改善する道筋を学びます。また、改善により生じた新たな経営資源を活用することによる付加価値を高める取組みについても事例を通じて学びます。				
研修の特長	・省人化、省力化の必要性について、その価値を示しながら学びます。 ・省人化・省力化に向けた自社改善のプロセスを習得します。 ・事例を通じて自社における取組みのヒントを得ます。 ◆本コースでの学習と併せて、下記コースをご活用ください。 ・「No.22 効率も成果も上がる！業務タスク管理術」 2026年6月23日(火曜)～2026年6月25日(木曜)〈3日間〉 ・「No.31 戦力となる人材に導く！人材育成計画づくり」 2026年8月3日(月曜)～2026年8月5日(水曜)〈3日間〉 ・「No.4 経営トップ研修 【第2期】」【港区虎ノ門開催】 2026年8月18日(火曜)～2027年2月25日(木曜)〈全14日間〉				
研修期間	2026年7月29日（水曜）〈1日間〉				
対象者	経営者、経営幹部 ・人手不足の中で業務改善に悩んでいる方 ・自社の省人化・省力化について検討している方	定員	20 名	受講料	16,000 円

日付	時間	科目	内容	講師
7/29 (水)	9時20分～9時30分	オリエンテーション		中小企業大学校担当職員
	9時30分～11時00分	省人化・省力化が求められる背景とその必要性	人口減少の中、限られた人的資源を活かして効果的な成果を上げるための考え方を学びます。また、新たな活動をする前の準備や生じる課題等を習得します。 ・省人化・省力化が求められる背景 ・人手不足対策 ・社内全体での共有化の重要性 ・従業員の負荷軽減と生産体制の再構築 ・技能伝承への対応（暗黙知を形式知に変える方法）	坂田 淳一 桜美林大学 教授
	11時00分～15時30分 (昼休 12時30分～13時30分)	省人化・省力化の進め方	実際に省人化・省力化を進めるためのプロセスを事例を交えながら学びます。また、自社における省人化・省力化の課題を検討します。 ・改善するために現場を見るポイント ・省人化・省力化のプロセス（メイン工程ではなく補助工程からの導入） ・設備導入のコストパフォーマンス（経営者はROI、現場はKPIの視点で評価する） ・省人化・省力化を進める企業事例 ・研修生同士の課題から読取る自社課題解決のヒント（演習）	
	15時30分～16時30分	省人化・省力化に取り組む企業【事例研究】（企業紹介を含む）	最後に、省人化・省力化に取り組み、企業変革に取り組んだ先進企業の事例から、自社への導入のヒントを学びます。	
	16時30分～17時30分	パネルディスカッション		コーディネーター 坂田 淳一（前掲）
	17時30分～17時40分	修了証書の授与		中小企業大学校担当職員

※カリキュラムは都合により変更する場合がありますので予めご了承ください。

講師氏名	略歴
坂田 淳一 (さかた じゅんいち) 桜美林大学 教授	早稲田大学理工学術院大学院情報通信研究博士課程卒業、博士（情報通信工学） 中小企業総合事業団（現：中小機構）、アーサー・アンダーセン（株）、東京工業大学准教授を経て現職。専門は、情報通信工学、情報科学、IoT、AI。著作：CIO学概論（東京大学出版・共著）、イノベーションを加速するオープンソフトウェア（静岡大学学術出版・共著）等。現在、医工連携による大学発ベンチャー企業で医療機器の製造販売にも携わっている。